

佐賀県鹿島市 *Press release*

報道機関 各位

部課名

企画財政課

件名	「地方創生と佐賀県の実情について」講演を実施しました。
アピールポイント	鹿島市立東部中学校及び佐賀県立太良高等学校の生徒に、「日本における人口問題の現状や佐賀県の実情について」講演を行いました。
説明	<p>(1)学校名 鹿島市立東部中学校 講演日 平成30年11月25日(日) 時間 14時10分～15:30分(80分) 対象者 266名(全校生徒230名及び保護者)</p> <p>(2)学校名 佐賀県立太良高等学校 講演日 平成30年11月26日(月) 時間 15時～15時45分(45分) 対象者 全校生徒200名(アンケート回収数 136名)</p> <p>※ 多くの生徒が、地元または県内に就職したい、或いは自分の住む町に魅力を感じていると回答しています。また、平成29年度に実施した近隣4高校(鹿島高校2校、白石、塩田)の講演においても同様の結果が出ております。このような生徒の思いに応えるため、鹿島市においては、平成31年2月6日(水)の午後、生涯学習センター(エイブルホール)において、鹿島市では初めてとなる「鹿島市企業説明会」を実施することにしております(参加企業数20社)。</p> <p>○鹿島市立東部中学校 地元または県内に就職したい 78% 自分の住む町に魅力を感じている 79%</p> <p>○佐賀県立太良高等学校 地元または県内に就職したい 58% 自分の住む町の価値を再認識した 84%</p>
別添資料	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし

本件に関する問合せ先

所属	企画財政課
氏名	納塚真琴
TEL	0954-63-2101
FAX	0954-63-2129
Mail	makoto-noutsuka@city.saga-kashima.lg.jp



地方創生と鹿島市の実情について(11/25)

【鹿島市立東部中学校】

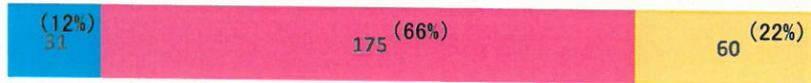


アンケートの結果は以下のとおりでした

※受講者数266名と回答者数は必ずしも一致しない(保護者含む)

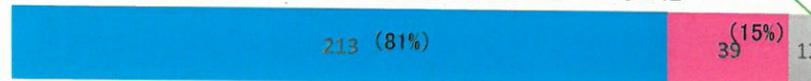
1. 地方創生と佐賀県の実情について理解できましたか。

■ よく理解できた ■ 理解できた ■ あまり理解できなかった



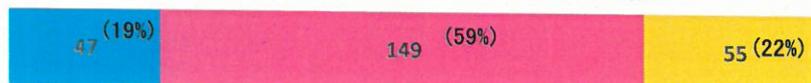
2. 講演の資料は理解しやすかったですか。

■ 理解しやすかった ■ 理解しにくかった ■ その他



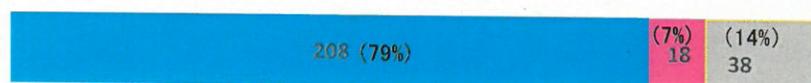
3. 就職したい場所はどこですか。

■ 地元 ■ 地元または県内 ■ 県外



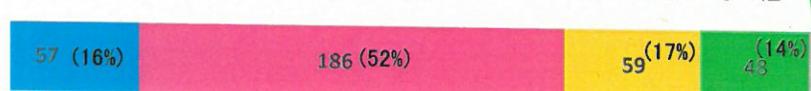
4. 自分の住む町に魅力を感じますか。

■ 感じる ■ 感じない ■ 分からない



5. 人口減少をストップするためには、何が重要だと思いますか。(複数回答可)

■ 就労促進 ■ こども、子育て支援 ■ 医療、介護 ■ 貧困格差 ■ その他



生徒の声

> 県外から移住し、知り合いもいなかったが、鹿島の住みやすさと人の良さに助けられている

> 高齢者を支える必要があることは大きな課題。他国とも協力した対応が必要ではないか

> 未来は自分達が作っていくもの。将来どんなことにかを入れるべきか考えることができた

> 幼いときは鹿島を出たいと思っていた。今は生涯鹿島で過ごしたいと思っている

> 海外シェアが50%もある企業が鹿島に存在することに、驚きとともに誇りを感じた

> 人口減が進まないように、高齢者も子育てに参加し、お互いが助け合える日本になって欲しい

> 人口が減少していく中で、自分たちは何をすべきか、どんなことをすれば良いのか考えることが出来た

> 県内市町村の人口が減少していることを学んだ。どうすれば鹿島を守れるか考えなければいけないと思った

> 少子高齢化が進んでいる実態に驚いた。一方、人口減少でも経済は縮小していない日本は凄いと感じた

> 人口減には色々問題があると思うが、今自分に何が出来るのかしっかりと考え、将来医療関係に進みたい

> あまり気にしていなかった人口減少などについて、学ぶ良い機会だった

> 自分の住む町や佐賀県の魅力、能力の高さを県外にも伝えられるよう、地元で活躍したい

> 自分の住む町の魅力をしっかりと知ることができた

> 人口は減少しているが、佐賀に存在する企業能力は衰えていない。私も将来は地元か県内で就職をしたい

> 日本の人口減少の状況を知ることができた。また、自分の住む町の魅力も知ることができた

> 高齢化社会となっている現在、私達がどのように生活していけば良いか考えていきたい

> 佐賀をもっと良くするために、就職は出来るだけ県内で就職しようと思った

> 人口減少による課題を改めて理解した。少子化問題はどのように改善するのか考えようと思った

> 講演を聞いて、自分の意見が持てるようになっておかなければならぬと思った

> 将来社会人になるときに必要のことを聞くことが出来て、本当に良い機会だった

> 世界との比較や現在の日本がどうなっているのか分かり、地元についてもっと知りたいと思った

> 自分の住む町の魅力を発信する必要があることを感じた



地方創生と鹿島市の実情について(11/26)

【佐賀県立太良高等学校】

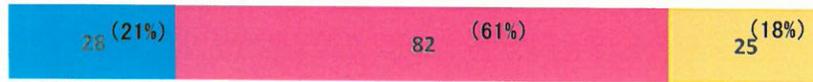


アンケートの結果は以下のとおりでした

※受講者数136名と回答者数は必ずしも一致しない

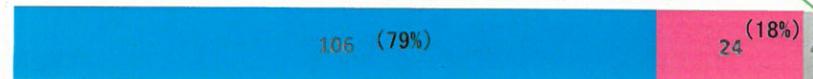
1. 地方創生と佐賀県の実情について理解できましたか。

■よく理解できた ■理解できた ■あまり理解できなかった



2. 講演の資料は理解しやすかったですか。

■理解しやすかった ■理解しにくかった ■その他



生徒の声

> 少子化は、生まれる子どもの数だけではなく、結婚しない傾向が課題であり、どう解決していくかが問題

> 佐賀県のマイナーなイメージが払拭できた。世界と取引をしている企業が地元にあることを知り驚いた

> 人口が減少しても、暗い見通しではないと理解した。これからの日本にもっと関心を持ちたいと感じた

> 講演を聞いて、地元で就職したいと思った。また、色々な話を聞いて良かった

> 医療・介護に力を入れたら人口減少はストップできると思った

> 自分の住む町の人口が減少していることがわかった

> 現在と過去を比較して「合計特殊出生率」に大きな差があることに驚かされた

> モノの捕らえ方や発想を変えることで、モノを見る見方も変わると、今日の講演で感じた

> マイナスの思考をプラスに考えることで成長の幅を広げることができるということを学んだ

> 子育てにお金がかかるのも少子化の一因。多く出生することが得することに繋がるような施策が必要

> 県外で就職し、色々な経験を積んでから自分の故郷のために働きたい

> 地元に残り、自分の住む町の魅力を発信することで、多くの人を呼び込みたいと思った

> 人口減少は進んでいるが、独自の技術や産業で経済が衰退しないように企業は努力していることを知った

> 他国と比較して日本の人口減少のスピードは著しいと理解する一方、人口減少をポジティブに考えることも重要と思った

> IOTやビッグデータ、人工知能は人口減少を補うためのものと思えばよいと思った

> 父が勤務している会社が日本で80%のシェア、海外で50%のシェアと聞いて驚いた。農業やトラクターに興味があるので、この方面で少しでも地元の役に立ちたいと思った

> 人口は減少しているが、AI、ビッグデータ、自動運転などで将来の先行きは明るいと感じて、安心した。中小企業でも海外シェア50%の企業があることを知り、凄いなと思った

> 人口減少=コミュニティーが保てなくなる、空き家が多くなる、商業施設が撤退していく可能性があるなど、人口減少が及ぼす影響の対策を考えないといけないと思った

> 佐賀県の実情について、深く知ることができた。これからの人生に活かして行きたいと思う。また佐賀県に誇りを持つこともできた

> 少子高齢化により担い手不足、経済的負担の増大、国土の維持・安全の問題など様々なことが理解できた

3. 就職したい場所はどこですか。

■地元 ■地元または県内 ■県外



4. 自分の住む町の価値を再認識することができたと思いますか。

■できた ■どちらかというとき ■あまりできなかった ■できなかった



5. 人口減少をストップするためには、何が必要だと思いますか。(複数回答可)

■就労促進 ■子ども、子育て支援 ■医療、介護 ■貧困格差 ■その他

